



## 暦の上では「春」になりました



早いもので、新年を迎えたと思ったら、あっという間に、1月が過ぎました。3学期も1ヶ月が経過して、今年度も残すところ1ヶ月半です。

よくニュースなどで「暦（こよみ）の上では、〇〇です。」と聞かれたことがあると思います。ここでいう暦とは、旧暦のころから使われていた二十四節気（にじゅうしせつき）のことです。これは太陽暦の1年を24等分したもので、2月上旬の「立春」から始まり、1月下旬の「大寒」で終わります。現代の感覚とは少し異なりますが、昔の暮らしの季節感が残る暦に風情を感じます。

さて、冬で言いますと、1月20日が「大寒（だいかん）」でした。この大寒から立春（2月4日）までが、最も寒さ厳しい時期とされています。今年は、この暦の通り寒さ厳しい日が続いていました。それに加えて、1月24日（火）夜の初めごろから25日（水）にかけて、「10年に1度の大雪」になりました。2学期終業式の12月23日にも、登校時から雪が降り運動場に雪が積もりました。しかし、今回はその比ではなく、「本当にここは和歌山なのか？」と思うほどの天候でした。

私自身も、火曜日の帰宅時に雪が吹雪いて、すでに道路も積もりかけていました。普段和歌山で見る雪は、水分の多いフワフワと舞うようなイメージですが、その夜は、道路に落ちて溶けず、おりからの強風もあり、雪国のような吹雪いているようでした。幸い、家に着くまで道路には雪は覆われませんでした。すでに駐車中の車や家の屋根は白く雪が積もっていました。

今回の積雪は、和歌山市で4cmの積雪（アメダスの記録から）がありました。屋根のある駐車場に車を停めていましたが、フロントガラスには雪がたっぷりついていました。横なぐりの雪が降り続いていたんだとわかりました。駐車場から車を出すと、「バリバリ」という音がしました。家の前の道は凍っているようでした。幸い県道まで出る道は平たんであったことから慎重にアクセ



ルとハンドルを操作して運転しました。あまり車が通った跡が見られなく、バリバリという音を聞きながらゆっくりと進みました。県道もちろん一面の雪道でした。すでに車の通った跡がありましたが、対向車線では赤信号のあとの発進でタイヤが空転しているのを見るとより運転が慎重になりました。普段の通勤時間の倍近くかかりましたが、無事学校の前に到着しました。

ありがたいことに、すでに到着している職員や見守りボランティアの方が、校門前を雪かきしてくれていました。

子どもたちはというと、手に雪をもってきたり、雪だるまをつくってきたりと雪道をウキウキしている様子で元気に登校してくれました。

休憩時間には、多くの子どもたちが運動場に駆け出し、雪だるまをつくるなど雪遊びを楽しんでいました。

28日（土）も岩出方面では、積雪があったようで、そのため那賀地方長距離大会が予備日も含め中止となりました。私の住んでいる和歌山市では雪が積もるほどではなかったので、ほんの少し離れているだけで天候が大きく変わることを感じました。

2月4日（土）は立春。暦の上では、春が始まる日です。太陽も7時前に顔を出すようになってきました。太陽の日差しがあると、暖かさを感じるようになってきます。校庭の木々は、この厳しい寒さを耐え抜いているからこそ、やがて春の訪れとともに芽を膨らませ見事な花を咲かせ、さらに生長していくことができるのだらうと思います。

## 「あい」のある学校の風景



【放課後子ども教室】  
和菓子作り



【地震体験】  
1・2年



【どうぶつの赤ちゃん】  
1年

## 寄贈本の依頼



卒業される6年生のみなさんの家庭にある図鑑や辞典、物語の本などがあれば、山崎小学校に寄贈いただければと思います。

図書ボランティアさんが整理してくれます。雑誌や漫画本（日本の歴史マンガなどは歓迎します。）は対象としません。

随時受け付けていますので、学校まで持ってきてください。よろしくお願いします。

